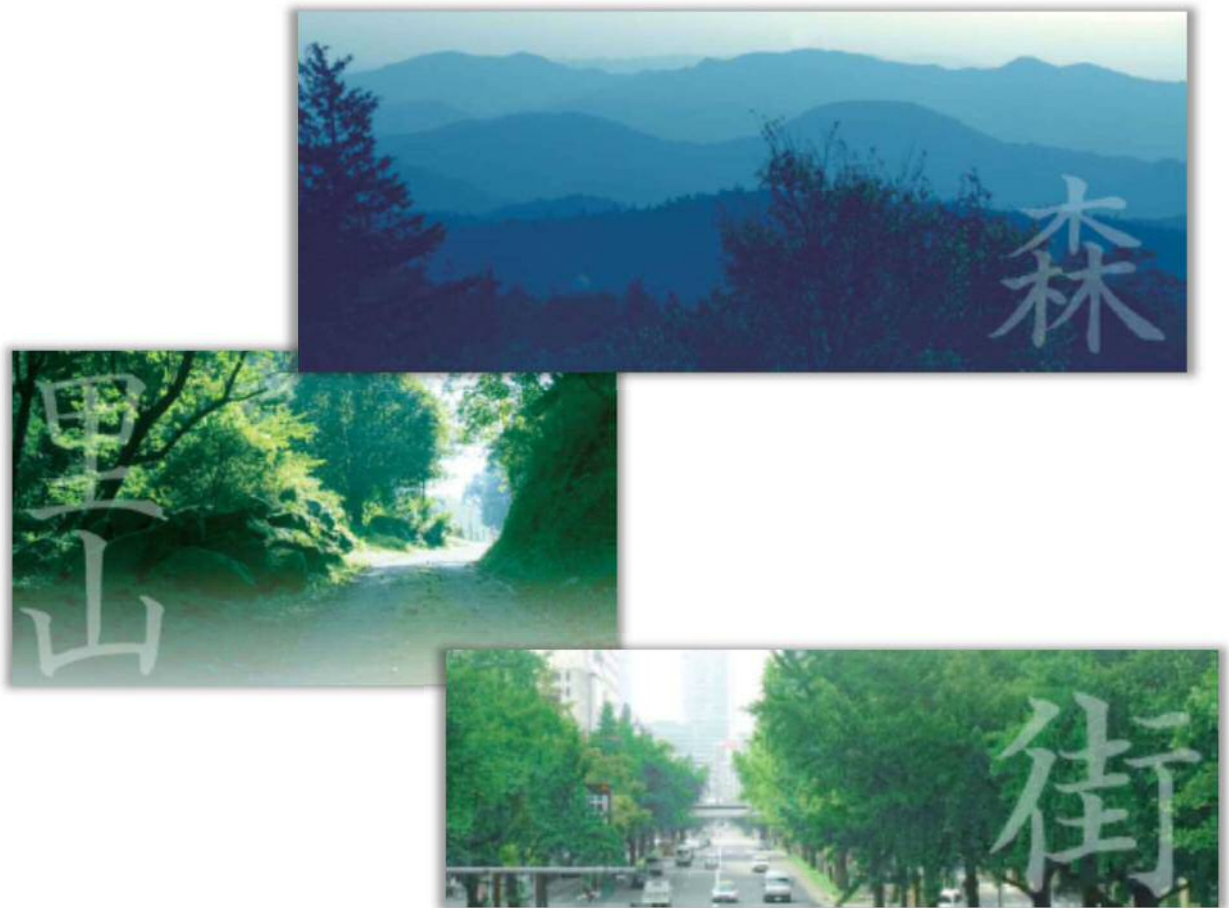


あいち森と緑づくり事業評価報告書（素案）

～山から街まで緑豊かな愛知をめざして～

本資料は、あいち森と緑づくり事業のこれまでの取組実績の評価について、あいち森と緑づくり委員会から御意見をいただくために作成したものであり、記載内容については、今後さらに検討を進めてまいります。

（写真は仮）



平成 年 月

はじめに

平成30年3月

愛知県知事
大村秀章

山から街まで緑豊かな愛知の実現

「森と緑」は環境保全、災害防止等の公益的機能により私たちの暮らしを支えています。

本県の「森と緑」を県民共有の財産として健全な状態で将来に引き継ぐため、平成21年4月から『**あいち森と緑づくり税**』を導入し、この税を活用して、手入れが行き届かない人工林の間伐や、放置された里山林の整備・保全及び都市部における貴重な緑地の保全・創出に加え、県民参加による森や緑の保全活動や環境学習などの取組を推進し、「**山から街まで緑豊かな愛知**」の実現を目指しています。

すべての県民が、「森と緑」の有する公益的機能がもたらす恩恵を享受

あいち森と緑づくり税を活用し、
森林、里山林、都市の緑をバランスよく整備・保全



森林の整備（人工林の間伐）

林業活動では整備が困難な奥地の人工林や、公道・河川沿い等の人工林について、強度の間伐を実施

整備対象森林



里山林の保全

地域住民等によるモデル的な里山林の保全活用の活動を支援

放置された里山林の再生整備



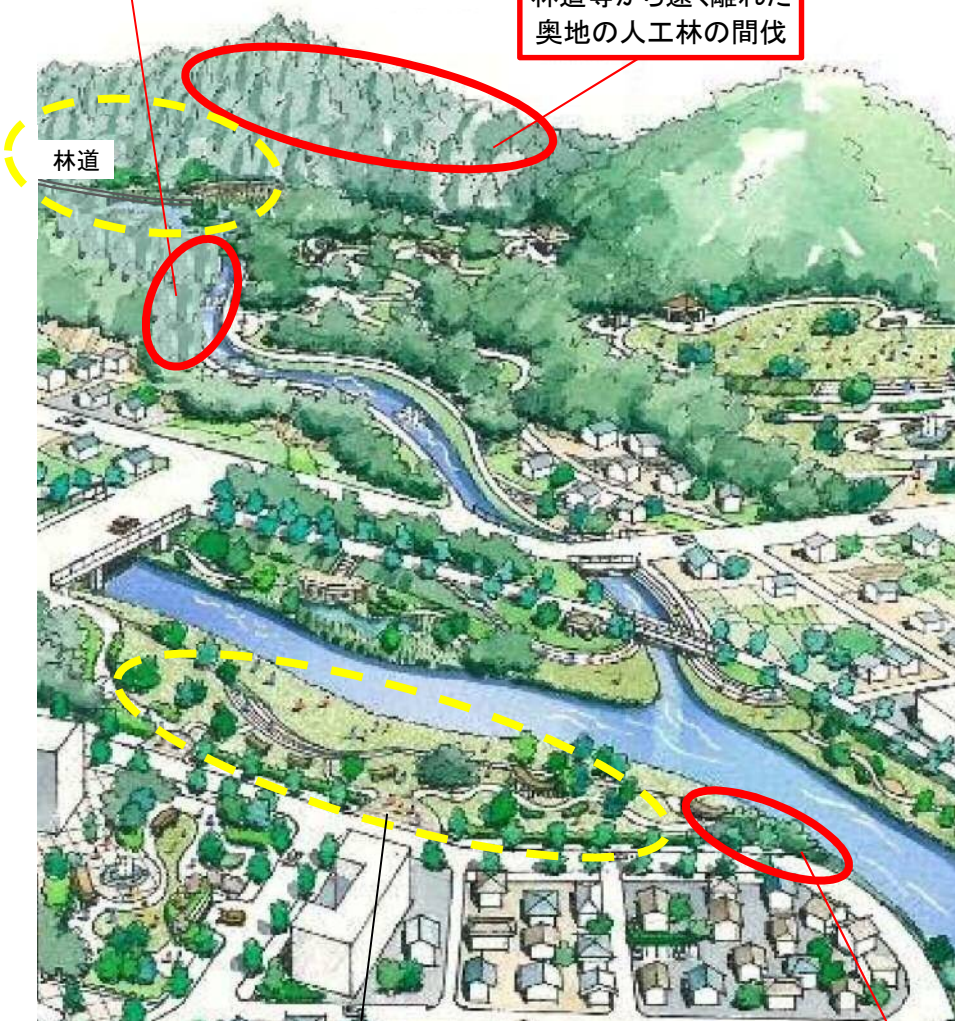
都市緑化の推進

都市部に残る貴重な緑地の保全、新たな緑地の創出、民有地緑化の助成、並木道の再生、県民参加による植栽体験や勉強会など様々な取り組みを実施



河川沿いの人工林の間伐

林道等から遠く離れた奥地の人工林の間伐



既存施策で整備

身近な緑づくり(都市部に残る貴重な緑の保全)

環境活動・学習推進

NPOや市町村等が行う環境保全活動・環境学習等を支援



普及啓発

森林整備や木材利用の意義についての普及啓発を実施



事業評価結果の概要

森林（人工林）の整備

【計画】 15,000ha
【実績】 13,272ha（H29 年度末見込み）
【進捗率】 88%
【成果】 ○・・・
○・・・

取組事例

写真

里山林の保全

【計画】 192 箇所
【実績】 168 箇所（H29 年度末見込み）
【進捗率】 88%
【成果】 ○・・・
○・・・

取組事例

写真

都市緑化の推進

【計画】 2,049 件
【実績】 1,999 件（H29 年度末見込み）
【進捗率】 98%
【成果】 ○・・・
○・・・

取組事例

写真

環境活動・学習推進

【計画】900件
【実績】849件（H29年度末見込み）
【進捗率】94%
【成果】○・・・
○・・・



普及啓発

■木の香る学校づくり

【計画】
【実績】
【進捗率】
【成果】○・・・
○・・・



■愛知県産木材利活用推進事業

【計画】
【実績】
【進捗率】
【成果】○・・・
○・・・



県民や事業者等々の意識

■アンケート調査

○・・・
○・・・

■事業に対する意見・要望等

○・・・
○・・・



課題と今後の方向性

【課題】



【今後の方向性】



目次

第1章	あいち森と緑づくり事業の取組について
第2章	あいち森と緑づくり税と基金の状況
1	あいち森と緑づくり税の内容
2	基金の状況
第3章	事業の実施状況
1	人工林整備事業
2	里山林整備事業
3	都市緑化推進事業
4	環境活動・学習推進事業
5	森林整備技術者養成事業
6	木の香る学校づくり推進事業
7	愛知県産木材利活用推進事業
8	事業のPR
第4章	事業の成果
1	人工林整備事業
2	里山林整備事業
3	都市緑化推進事業
4	環境活動・学習推進事業
5	森林整備技術者養成事業
6	木の香る学校づくり推進事業
7	愛知県産木材利活用推進事業
第5章	県民や事業関係者等の意識
1	アンケート調査
2	事業に対する意見、要望
第6章	課題と今後の方向性
1	課題
2	今後の方向性
第7章	あいち森と緑づくり事業の取組事例
	(資料編)

第1章 あいち森と緑づくり事業の取組について

■経緯

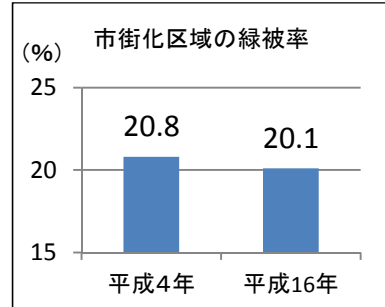
- 森林・里山林の手入れ不足や都市の緑の減少により、森と緑が有する環境保全や災害防止等の働き（公益的機能）が衰えてしまうことが心配されています。



間伐が必要な人工林



放置された里山林



既存の森と緑づくりに関する施策

- 林業の振興
（造林事業などによる森林所有者や林業事業体の支援等）
- 保安林の整備
（治山事業）
- 都市緑化基金等による小規模な民有地緑化の助成
- 公園緑地の整備（比較的規模の大きな補助事業が主）
- 道路事業による植樹帯整備等

+

森と緑づくりのための新たな施策 【あいち森と緑づくり事業】

- 林業活動では整備が困難な森林を、県が森林所有者に代わって整備
- 放置された里山林を、市町村又は県が森林所有者に代わって整備
地域住民等による里山林の保全・活動を進めるための基盤整備
- 都市における貴重な民有樹林地の保全や小規模な緑地の創出、一定規模以上の民有地緑化の助成、美しい並木道の再生、県民参加による緑化活動への助成 等
- 普及啓発（環境活動・学習の支援や、木の香る学校づくり 等）

山から街まで緑豊かな愛知の実現をめざす



森林



里山林



都市の緑

森と緑が有する働き（公益的機能）の例

環境保全

二酸化炭素の吸収による地球温暖化の防止や蒸発散作用による温度調節など、地球の環境を整えます。



災害防止

下草や低木、落ち葉などが雨水による地表の浸食を防ぎ、木の根が土砂の崩壊を防ぎます。
また、都市においては火災による延焼を防止し、避難地としての役割も果たします。



快適環境形成

ヒートアイランド現象を緩和したり、防風や防音のほか、空気中の汚れを吸着したりします。



レクリエーション

人々に安らぎや豊かさを与えたり、健康の増進や行楽、スポーツの場所を提供します。



水源かん養

土壌が雨水を蓄えることで、洪水や渇水を緩和します。
また、土を通り抜けた水を浄化します。



生物多様性保全

様々な野生動物や植物などが互いにつながり、ともに生きる場を提供します。



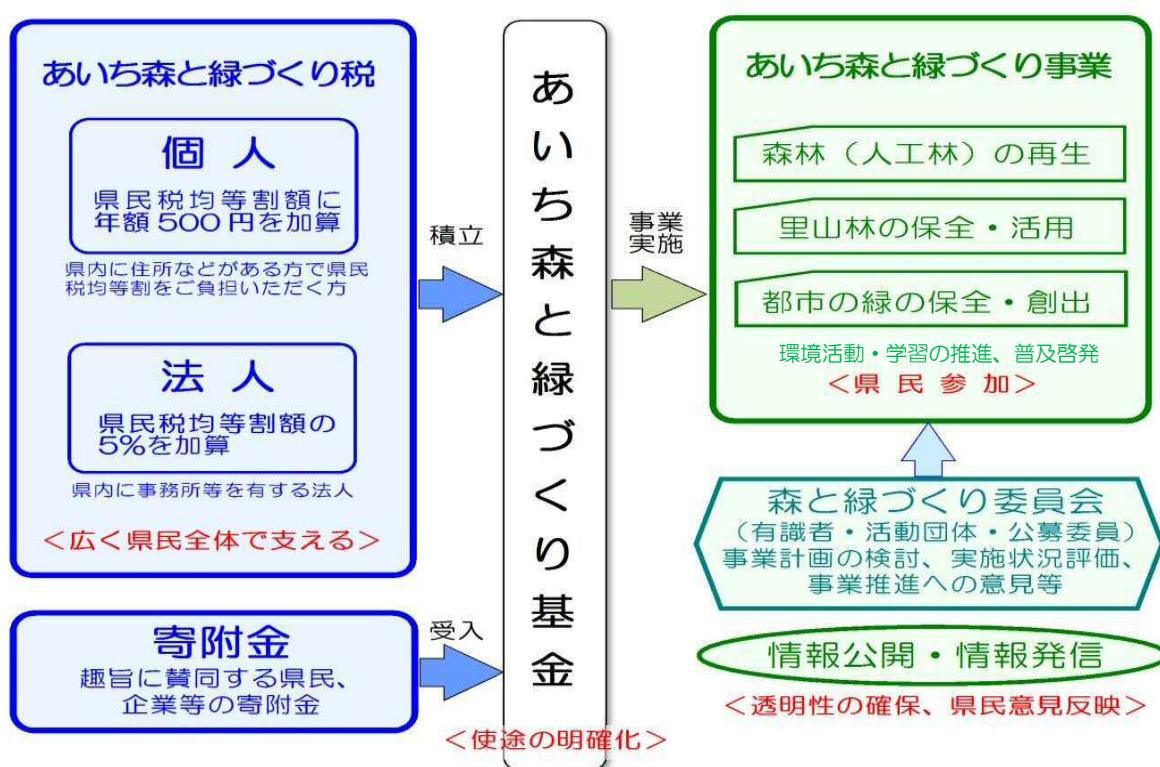
文化・景観

森や緑の美しさが、行楽や芸術の対象となり、人々に感動を与えます。
また、都市の景観に潤いをもたらします。



■事業のしくみ

- あいち森と緑づくり事業は、森や緑の持つ様々な公益的機能の発揮を目的に、平成 21 年度から「あいち森と緑づくり税」を導入し、県内の森林や里山林、都市の緑を整備、保全するために、平成 21 年度から 10 年の計画で実施している事業です。
- 「あいち森と緑づくり基金」を設置し、あいち森と緑づくり税はすべてこの基金に積み立てて、あいち森と緑づくり事業に限定して支出することで、用途の明確化を図っています。
- 事業の効果的な推進と透明性の確保のため、事業成果の積極的な公開とともに、有識者や活動団体の代表、公募委員で構成される「あいち森と緑づくり委員会」を設置し、事業の計画、進捗、実績の評価等に対する意見をいただきながら、それを参考に事業を進めています。



■あいち森と緑づくり事業の経緯と関連する主な出来事

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
■事業開始		■事業評価(中間)				
		■5年間の延長決定 ■事業計画の見直し ■事業の拡充 ・普及啓発事業に愛知県産木材利活用推進事業を追加 ・環境活動・学習推進事業に生態系ネットワーク形成事業を追加 ・ESDユネスコ世界会議の開催(名古屋市内)				
		・全国都市緑化あいちフェアにて普及啓発の実施 ・COP10の開催(名古屋市内)				

■事業概要

- ・事業期間 平成21年度～平成30年度（10年間）
- ・総事業費 220億円
- ・事業内容

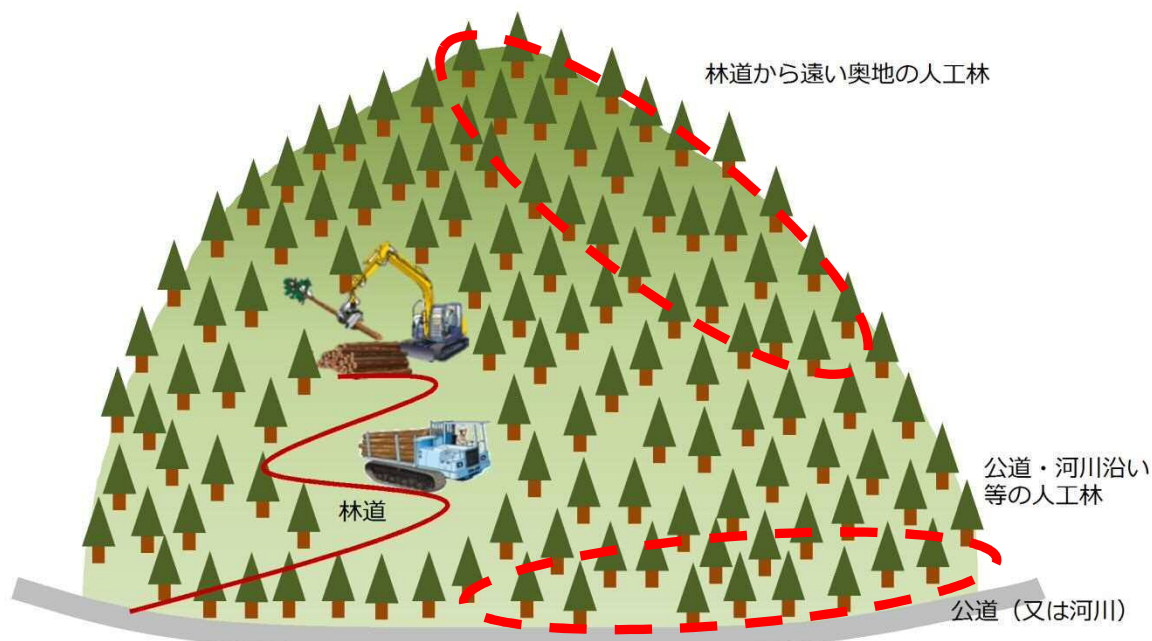
分野	事業名	概要
森林整備 (113億円)	人工林整備事業	林道から遠い奥地や公道・河川沿いの間伐 【15,000ha】
	森林整備技術者養成事業	技能講習、実地研修等 【200人】
里山林整備 (24億円)	里山林再生整備事業	除間伐等の整備と簡易防災施設の設置 【63箇所】
	身近な里山林整備事業 〔・提案型里山林整備事業 ・里山林健全化整備事業〕	地域住民、団体等によるモデル的整備や放置された里山林の整備 【129箇所】
都市緑化 (60億円)	都市緑化推進事業 〔・身近な緑づくり事業 ・緑の街並み推進事業 ・美しい並木道再生事業 ・県民参加緑づくり事業〕	・市街化区域等の私有樹林地の市町村有地化及び緑地整備等 ・私有地の敷地又は屋上、壁面等の緑化 ・公共施設の沿道等の街路樹の植え替え等 ・県民参加の都市緑化活動 【2,049件】
環境活動等推進 (6億円)	環境活動・学習推進事業	多様な主体による環境保全・環境学習活動 【900件】
普及啓発等 (17億円)	木の香る学校づくり推進事業	公立小中学校における県産木材製の机・椅子等の導入 【机・椅子の導入 70,000セット】 【下駄箱・ロッカー等の導入 1,640セット】
	愛知県産木材利活用推進事業	間伐材の搬出促進や公共施設における木製ベンチの導入 【80件】

注：【】書きは計画数量

平成28年度	平成29年度	平成30年度
<p>・あいちトリエンナーレで都市の木質化の普及啓発の実施</p> <p>〔・H31全国植樹祭の開催県に決定〕</p>		

■人工林整備事業

- 林業活動では整備が困難な奥地や作業が困難な公道・河川沿い等の人工林について、公益的機能を十分に発揮する森林へ誘導するために、県が間伐等を実施。



■森林整備技術者養成事業

- 通常の森林整備より作業条件が悪い本事業に従事する技術者の確保、育成を進めるために、必要な技術・技能を短期間で習得させる研修を実施。

■里山林整備事業

【里山林再生整備事業】(県事業)

- 手入れがされていない里山林を再生するため、県が抜き切り、枯損木や竹の除去等の整備に加えて、防災機能向上のための簡易防災施設の設置等を実施。

【提案型里山林整備事業】(市町村事業)

- 市町村が、地域住民等と協働で里山林整備を進めるため、森林調査や作業小屋・歩道等の施設整備、必要最小限の森林整備等を実施する場合に支援。

【里山林健全化整備事業】(市町村事業)

- 市町村が、手入れのされていない里山林の健全化のための整備を実施する場合に支援。

イラスト追加予定

■都市緑化推進事業

- 環境改善・防災・景観形成などのさまざまな機能を持ち、快適、安全で健康的な都市生活において欠かせない「都市の緑」。その保全や創出を、以下の4つの事業により推進。



身近な緑づくり

市街地の既存樹林を市町村が買い取り、保全
市街地において新たな緑地を創出

既存樹林の保全

身近な緑地の整備

空き地等

事業前

事業後

美しい並木道再生

都市の顔となる地区の道路において、美しい並木道を再生

事業前

並木の再生

事業後

緑の街並み推進

市街地の民有地において、まとまった規模での優良な緑化工事費の一部を助成し、民有地緑化を推進

壁面緑化

屋上緑化

空地緑化

生垣設置

駐車場緑化

県民参加緑づくり

公有地で行われる県民参加による緑づくり活動を推進

植樹

ビオトープづくり

■環境活動・学習推進事業

- 多様な主体による自発的な森と緑の保全活動や環境学習の一層の進展を図るため、NPO、市町村等を対象に企画提案型の交付金事業を実施し、活動に対する支援。
- 県民、事業者、NPO、行政等の地域の様々な立場の人々が協働して、生きものの生息生育空間を保全・再生・創出し、地域の生態系ネットワークを形成する事業を支援。

■木の香る学校づくり推進事業

- 森林整備の意義や木材活用の効果について普及啓発を進めるため、市町村が公立小中学校に愛知県産木材を使用した学習机、椅子、下駄箱等を導入するのに必要な経費の一部を助成。
(平成25年度以降は、下駄箱、ロッカー、教卓、教壇、腰壁、床板、遊具を事業対象に追加。)

■愛知県産木材利活用推進事業

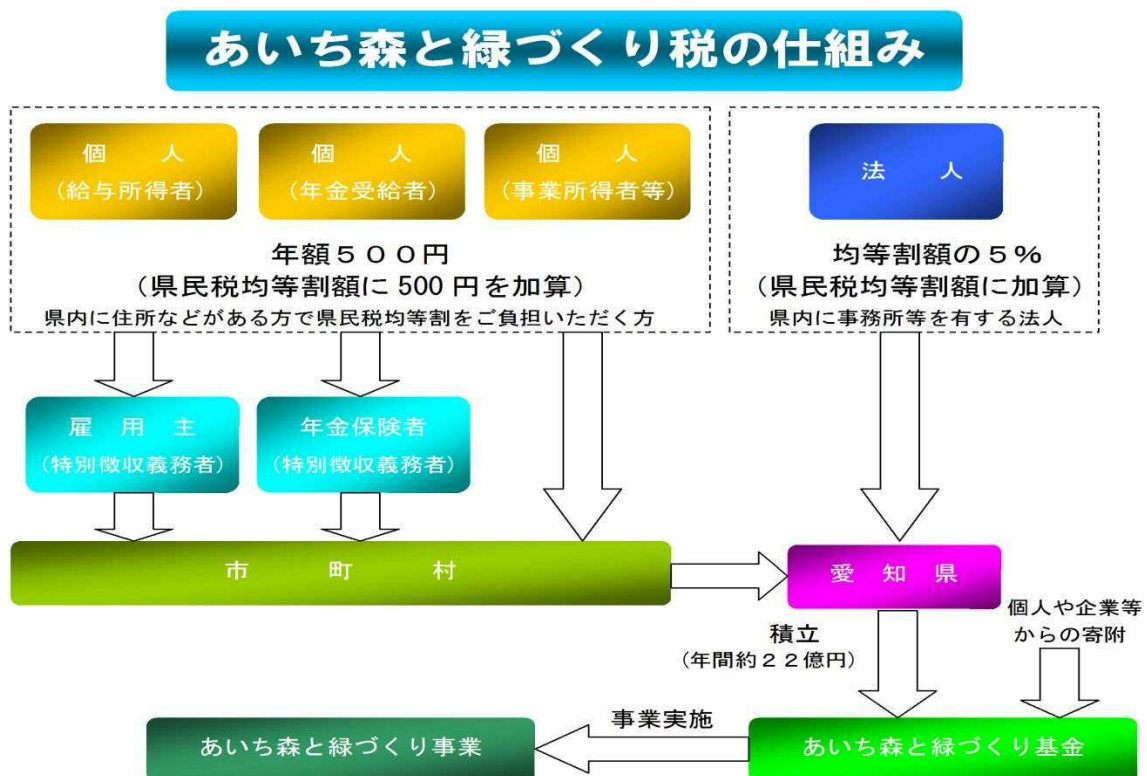
- 愛知県産木材の利活用を推進し、自発的な森林整備につなげるため、市町村が行う間伐材搬出補助や、公共施設への木製ベンチの導入の取組に対して助成。

第2章 あいち森と緑づくり税と基金の状況

- 平成29年度末までの積立額は累計で193億4千万円、取崩額は累計で190億9千万円であり、平成28年度末の基金残高は2億5千万円(執行率97%)となっています。(金額はいずれも見込)

1 あいち森と緑づくり税の内容

- 森と緑が有する環境保全、災害防止等の公益的機能がもたらす恩恵を全ての県民が享受していることから、あいち森と緑づくり税は、県民税均等割の超過課税とし、納税義務者は県民税の納税義務者と同じになっています。
- 税率は、個人は年額500円を加算し、法人は年5%を加算しています(加算額は資本金等の額に応じて1,000円から40,000円)。
- 課税期間は、平成30年度までの10年間(注)となっています。
(注)平成25年9月議会にて課税期間を5年間延長する条例改正案を可決。
- 税収の使いみちを明確にするため、税収相当額を「あいち森と緑づくり基金」に積み立て、「あいち森と緑づくり事業」の財源として充当しています。



2 基金の状況

- あいち森と緑づくり基金には、税収のほかに、個人や企業からの寄附金や運用益も積み立てられています。
- 用途は、あいち森と緑づくり事業の事業費に限定しており、毎年度の取崩額は、その年度の事業費となっています。

■年度別の基金積立額（図 2-1）

- 基金積立額は、税込期間の関係で税込が通常より少なかった平成 21 年度を除き、毎年度 22 億円程度で推移しています。

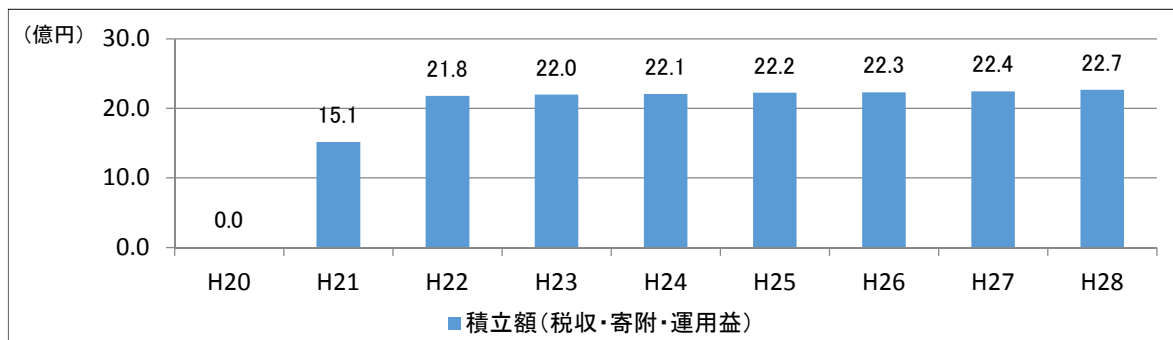


図 2-1 基金積立額・取崩額の推移

■年度別の基金取崩額と事業別内訳の推移（図 2-2）

- 取崩額は、事業開始後、平成 25 年度まで毎年増加を続け、26 年度以降は、都市緑化推進事業における交付限度額の引き上げ、環境活動・学習推進事業における生態系ネットワーク形成事業の新設、普及啓発事業における愛知県産木材利活用推進事業の新設など、一部事業の見直しを行い、毎年度 22～25 億円程度で推移しています。

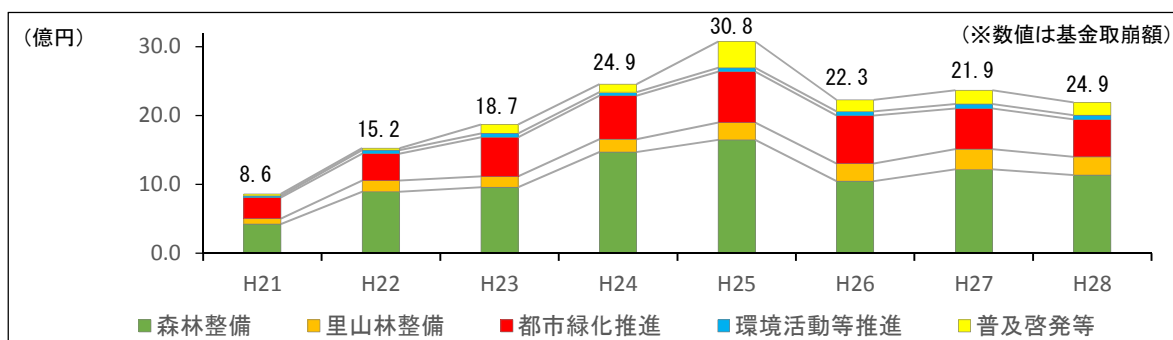


図 2-2 年度別の基金取崩額と事業別事業費の推移事業別の事業費の推移

■基金残高の推移（図 2-3）

- 積立額と取崩額の差額である基金残高は、平成 23 年度をピークに減少しており、平成 28 年度末の金額は 4 億 7 千万円となっています。
- これは、平成 28 年度末までの総積立額 170 億 7 千万円の 3%にあたり、これまで 8 年間の基金の執行率は 97%となっています。

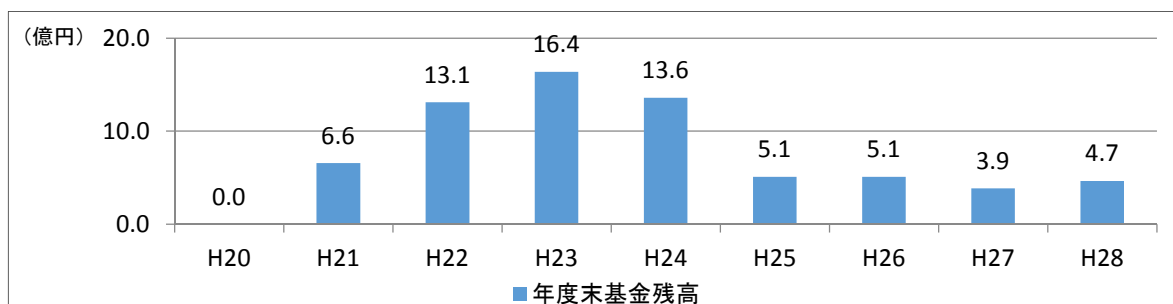


図 2-3 基金残高の推移

第3章 事業の実施状況

1 人工林整備事業

- 平成29年度末現在の実績（見込み）は13,272haで、事業計画15,000haに対する進捗率は88%となっています。
- 奥地、公道・河川沿いの別で見ると、境界確認がより困難な奥地林の間伐がやや遅れており、道路・ライフラインの確保の観点からも積極的に取り組んだ公道沿いの間伐が進んでいます。

■年度別間伐面積及び事業計画の進捗状況（図3-1）

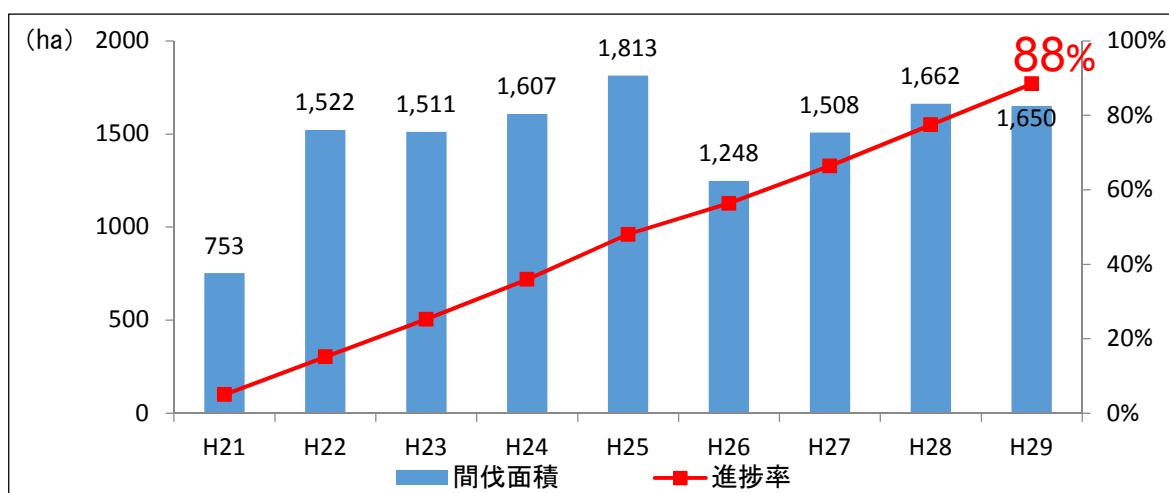


図3-1 年度別間伐面積及び事業計画に対する進捗率

■奥地林（図3-2）

- 事業計画10,000haに対し、9年間の間伐実績（見込み）は8,389haです。

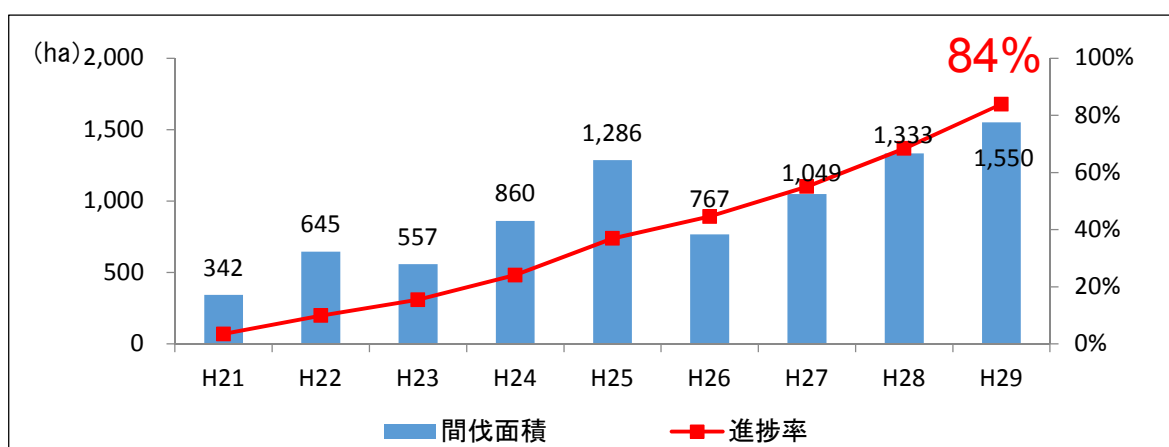


図3-2 奥地林の年度別間伐面積及び事業計画の進捗率

■公道・河川沿い（図 3-3）

○ 事業計画 5,000ha に対し、9 年間の間伐実績（見込み）は 4,883ha です。

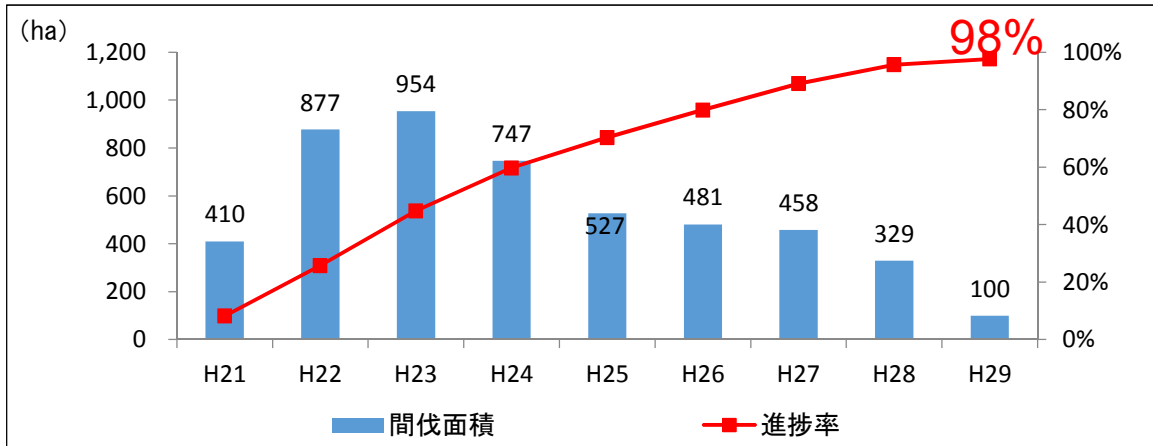


図 3-3 公道・河川沿いの年度別間伐面積及び事業計画の進捗率

■県全体の間伐面積に占める割合（図 3-4）

○ 本事業による間伐面積は、平成 28 年度には県全体のスギ・ヒノキ人工林の間伐面積の 5 割を占めるようになり、本県における間伐の推進の大きな役割を担っています。

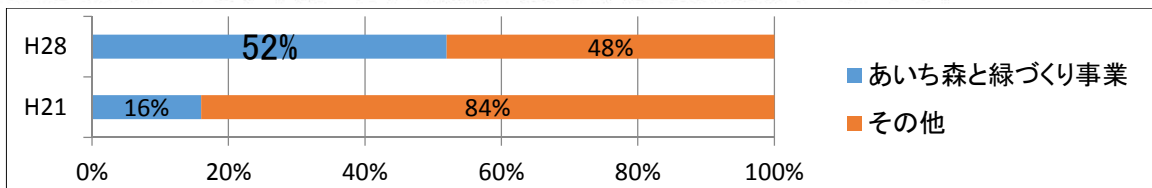
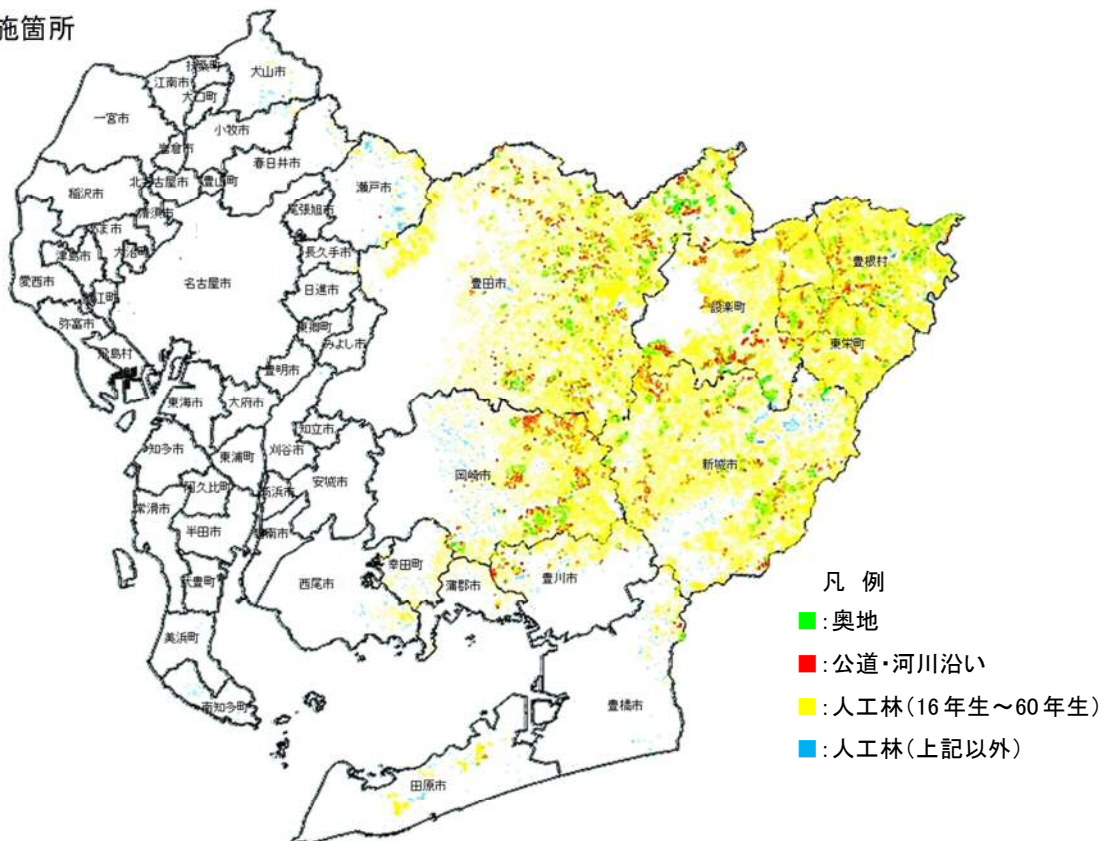


図 3-4 県内の間伐面積に占める割合

■事業実施箇所



2 里山林整備事業（里山林再生整備事業、提案型里山林整備事業、里山林健全化整備事業）

- 平成 29 年度末現在の実績は 168 箇所（見込み）で、事業計画 192 箇所に対する進捗率は 88%となっています。
- 事業別に見ると、地域の活動団体と協働で里山林整備を進める「提案型里山林整備事業」の進捗率が低くなっています。

■年度別事業実績及び事業計画の進捗状況（図 3-5）

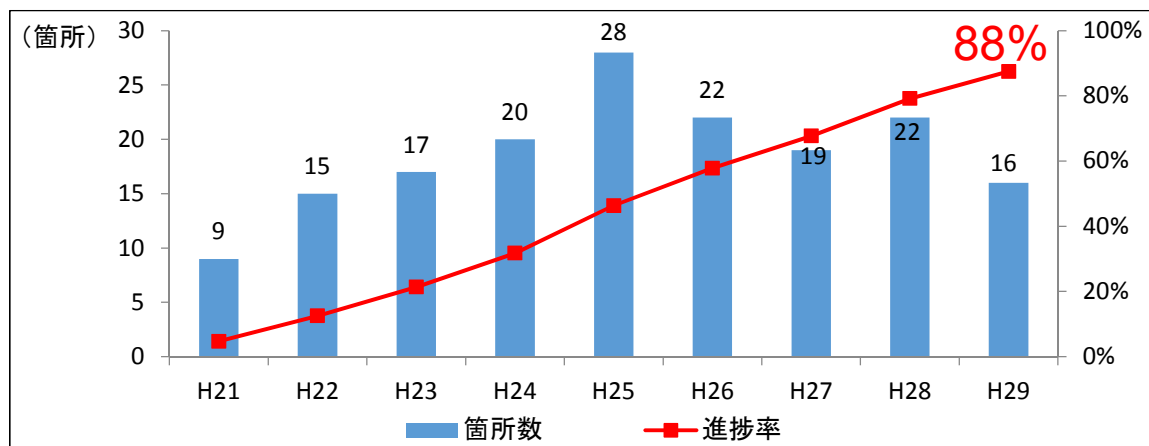


図 3-5 年度別新規箇所数及び事業計画の進捗率

■里山林再生整備事業の実績（図 3-6）

- 事業計画 63 箇所に対して9年間実績は 60 箇所（見込み）です。

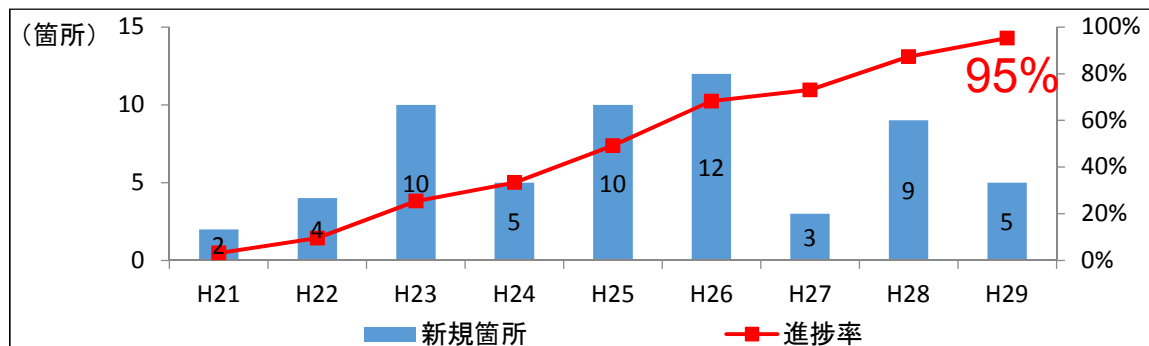


図 3-6 里山林再生整備事業の箇所数及び事業計画の進捗率

■提案型里山林整備事業の実績（図 3-7）

- 事業計画 50 箇所に対して9年間の実績は 35 箇所（見込み）です。

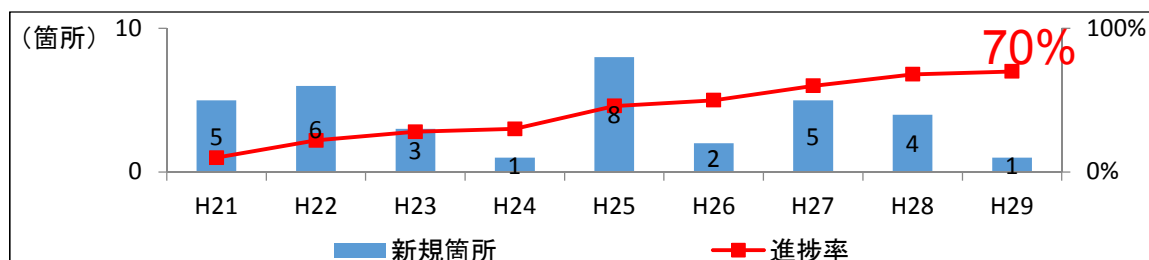


図 3-7 提案型里山林整備事業の箇所数及び事業計画の進捗率

■里山林健全化整備事業の実績（図 3-8）

○ 事業計画 79 箇所に対して9年間の実績は 73 箇所（見込み）です。

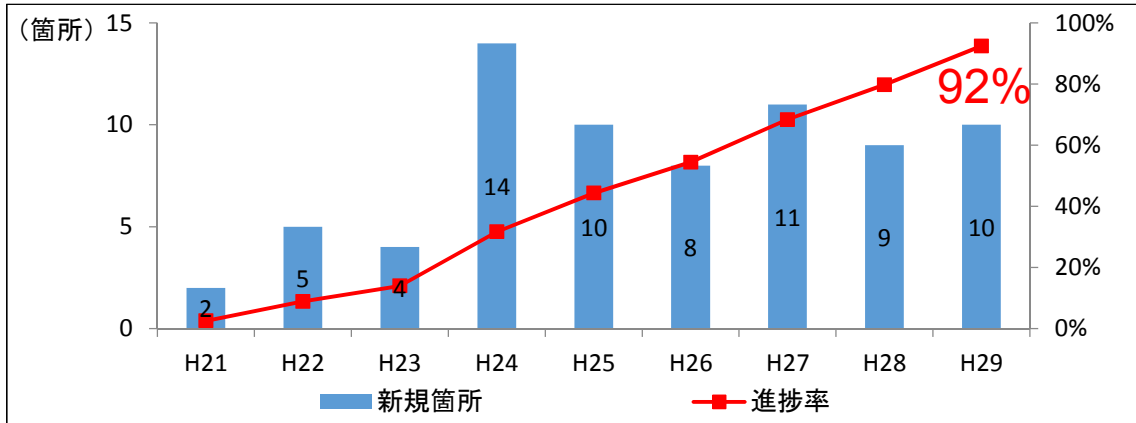
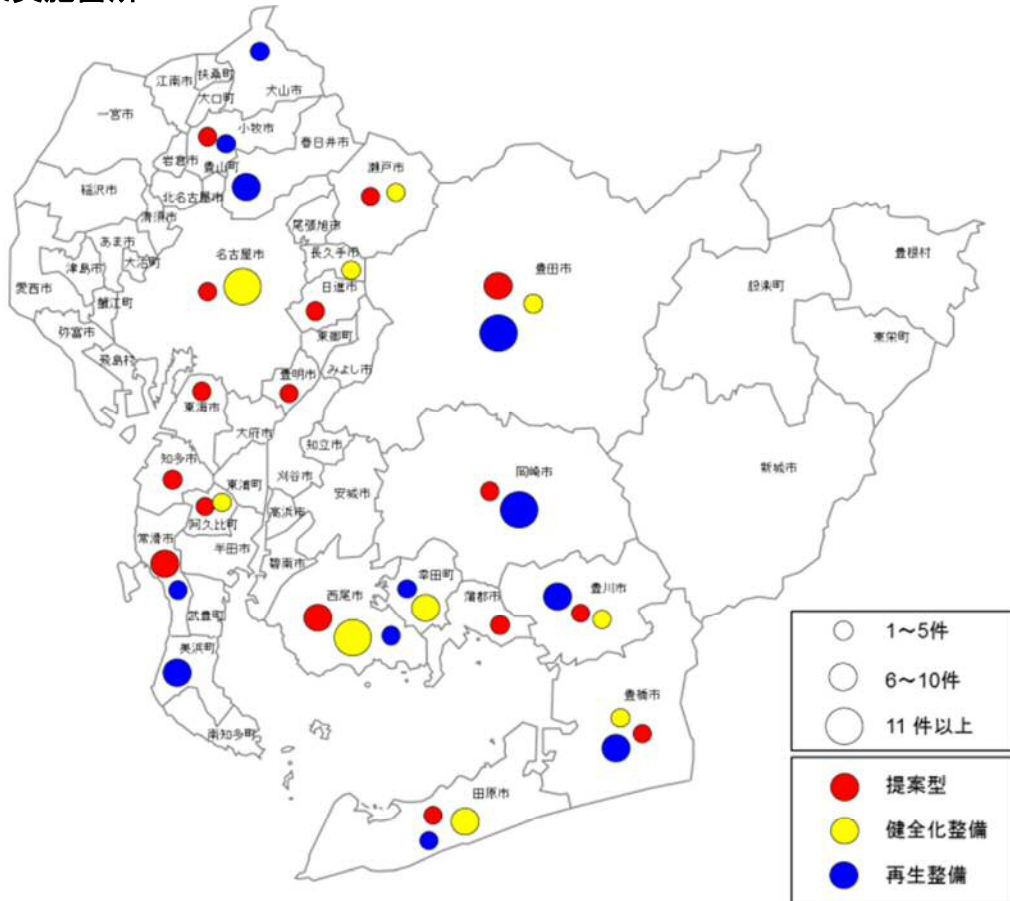


図 3-8 里山林健全化整備事業の箇所数及び事業計画の進捗率

■事業実施箇所



3 都市緑化推進事業

- 平成 29 年度末現在の実績（見込み）は、1,999 件の事業に助成、事業計画 2,049 件に対する進捗率は 98%となっています。
- 事業別に見ると、「県民参加緑づくり」の進捗率が 110%（見込み）と最も高く、県民の緑づくりに対する理解の促進につながっています。

■身近な緑づくり事業（図 3-9）

- 全体計画 124 箇所に対して、9 年間の実績は 113 箇所（見込み）です。

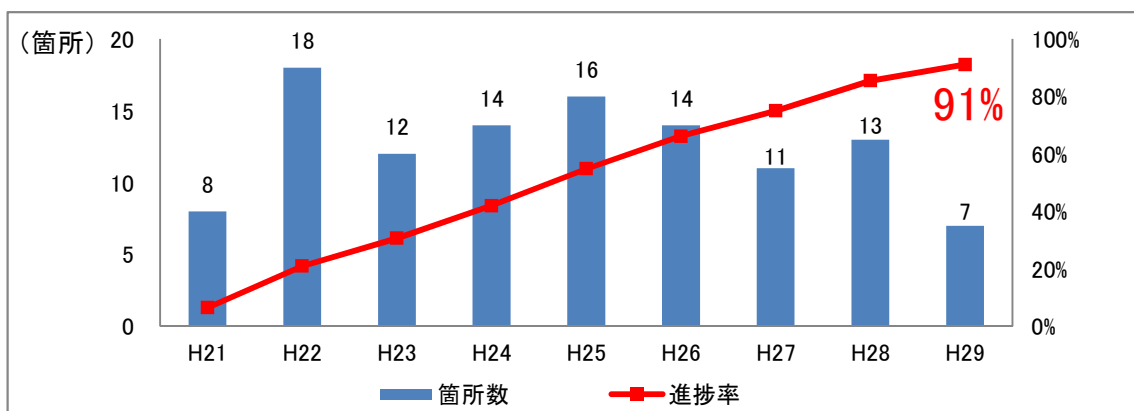


図 3-9 身近な緑づくり事業の箇所数及び事業計画の進捗率



樹林地の保全（扶桑町）



緑地の創出（幸田町）



軌道緑化（豊橋市）



公共施設の屋上緑化（愛西市）

■緑の街並み推進事業（図 3-10）

○ 全体計画 1,000 件（民有地緑化への助成）に対して、9年間の実績は 896 件（見込み）です。

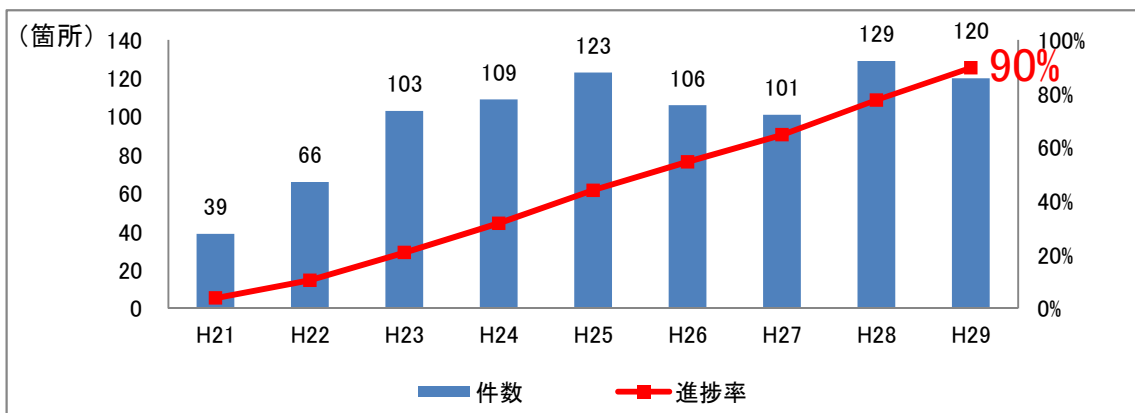


図 3-10 緑の街並み推進事業の箇所数及び事業計画の進捗率



空地緑化（名古屋市）



屋上緑化（北名古屋市）



駐車場緑化（豊田市）



壁面緑化（長久手市）

■美しい並木道再生事業（図 3-11）

○ 全体計画 145 箇所に対して、9 年間の実績は 135 箇所（見込み）です。

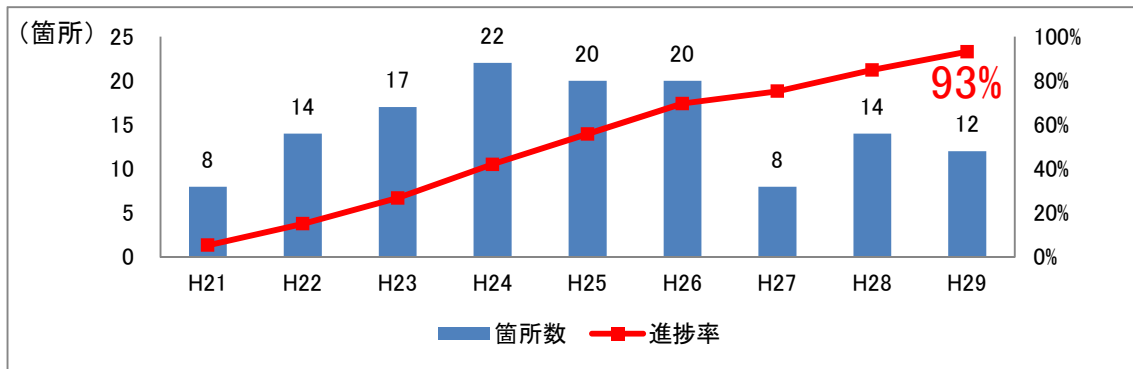


図 3-11 美しい並木道再生事業の箇所数及び事業計画の進捗率

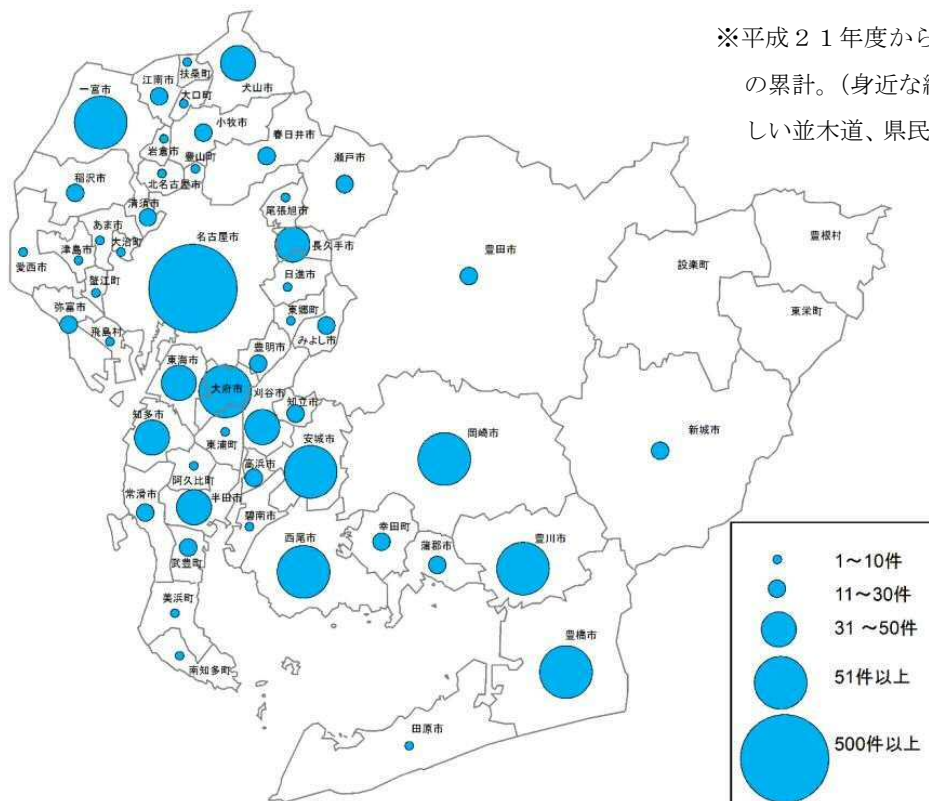


並木道再生（知多市）



並木道再生（一宮市）

■事業実施箇所



■県民参加緑づくり事業（図 3-12）

○ 全体計画 780 回に対して、9 年間の実績は 855 回（見込み）です。

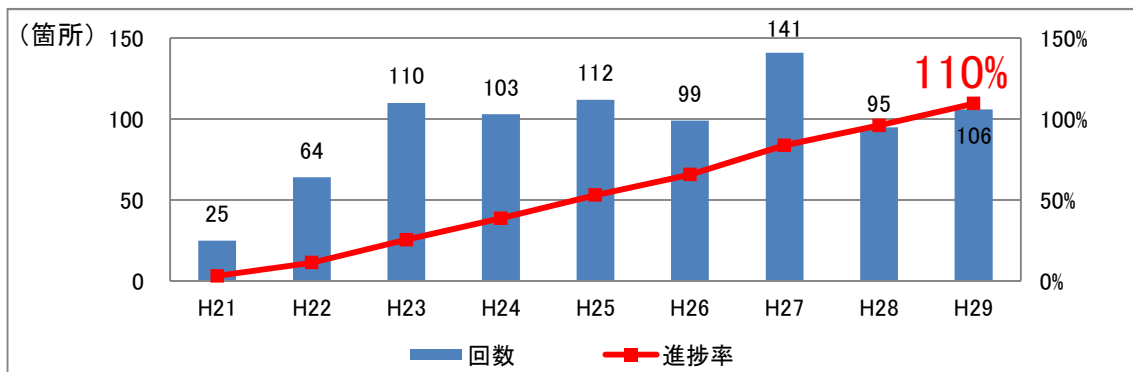


図 3-12 県民参加緑づくり事業の箇所数及び事業計画の進捗率



校庭緑化（春日井市）



植樹祭（名古屋市）



県内産花卉を使用した駅前花壇
（蒲郡市）



NPO による森づくり
（モリコロパーク）

4 環境活動・学習推進事業

- 平成29年度末現在の実績(見込み)は849件で、事業計画900件に対する進捗率は94%となっています。
- そのうち、NPOや市町村等による環境活動・学習への支援が821件、生態系ネットワーク形成への支援が28件となっています。

■年度別事業実績及び事業の進捗状況 (図3-13)

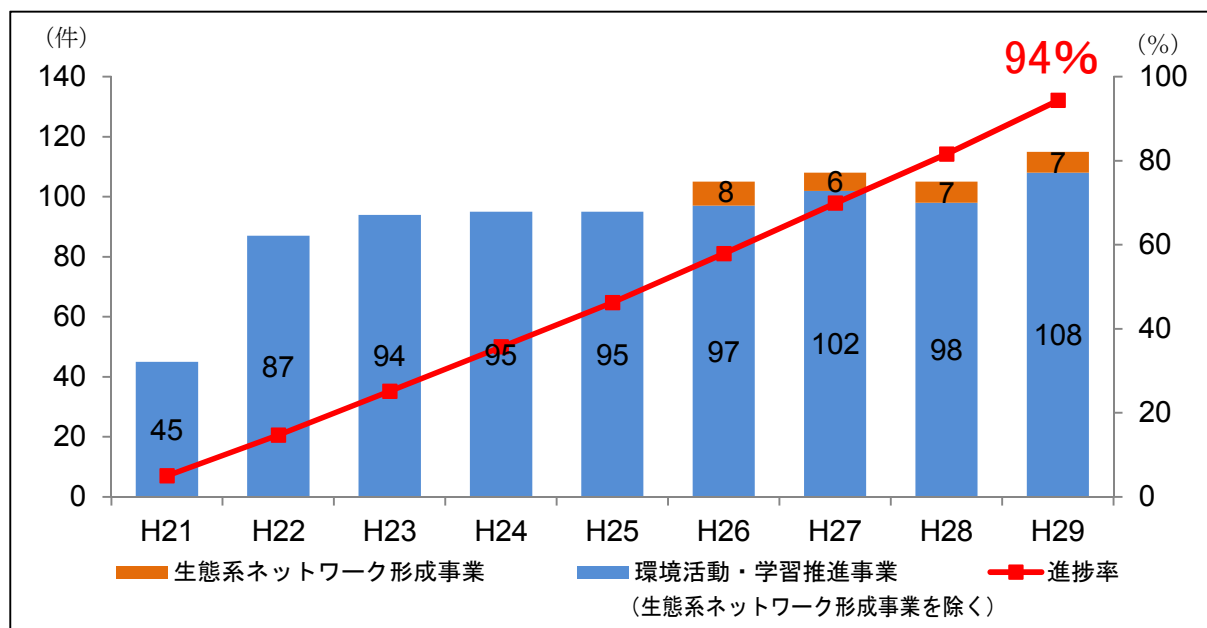


図3-13 環境活動・学習推進事業の交付事業数及び事業計画の進捗率

■交付金応募事業数 (図3-14)

- 交付金の応募事業数は増加傾向にあります。

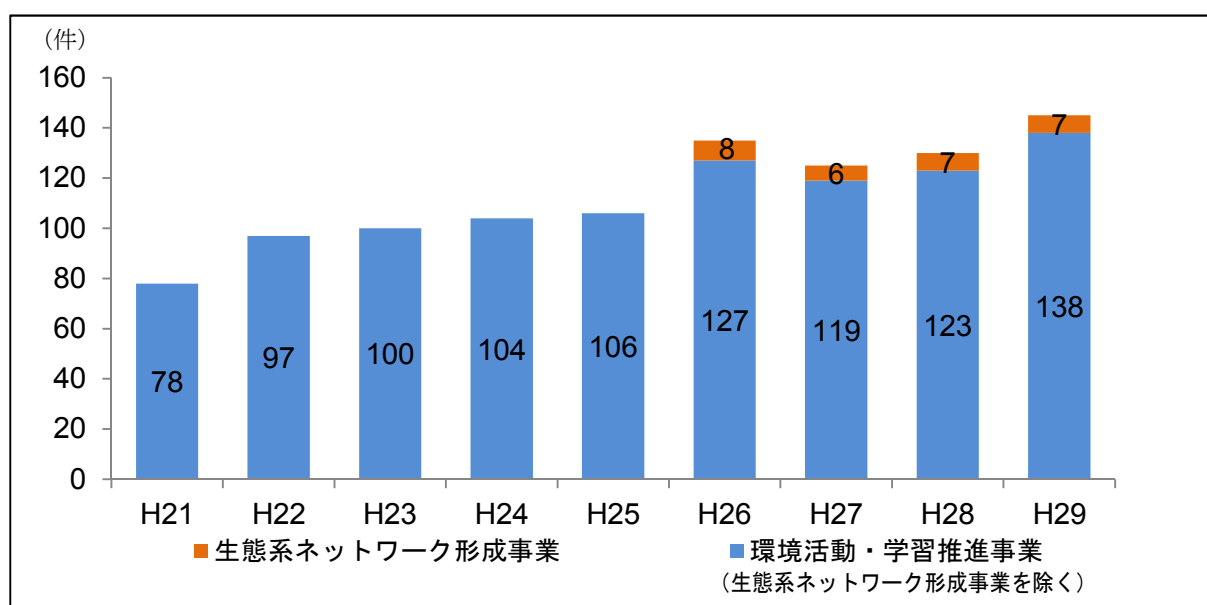


図3-14 環境活動・学習推進事業の応募事業数

■事業区分別の交付実績

○ 平成 21 年度から 9 年間の実績では、「生物多様性に関連した独自提案による環境活動・学習事業」が最も多く、次いで「森・緑の育成活動事業」「水と緑の恵み体感事業」「太陽・自然の恵み学習事業」が多くなっています。

「生態系ネットワーク形成事業」は、生きものの生息生育空間であるビオトープの創出や維持・向上等、地域の生態系ネットワークを形成する事業を支援するもので、平成 26 年度から実施しており、4 年間の実績（見込み）は 28 件です。

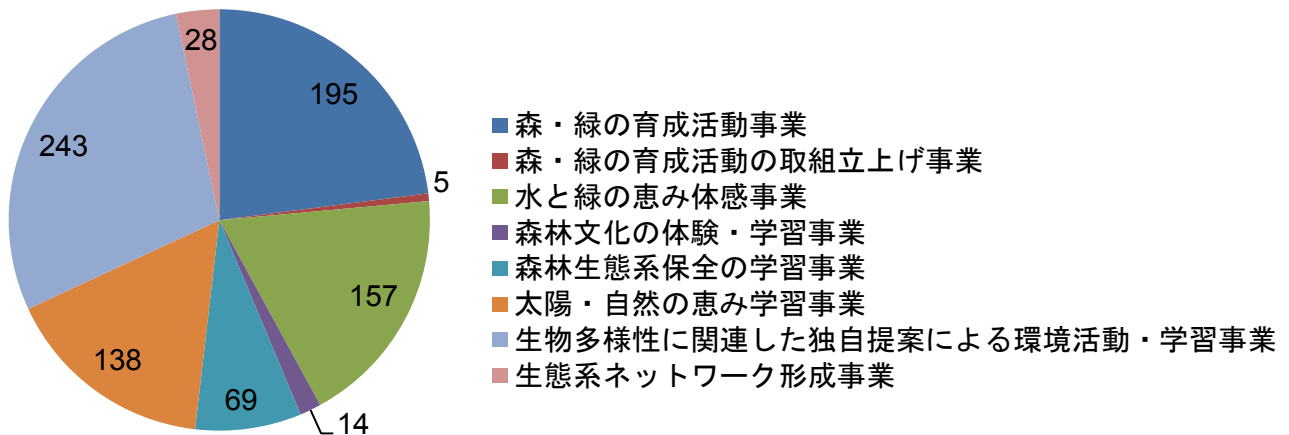
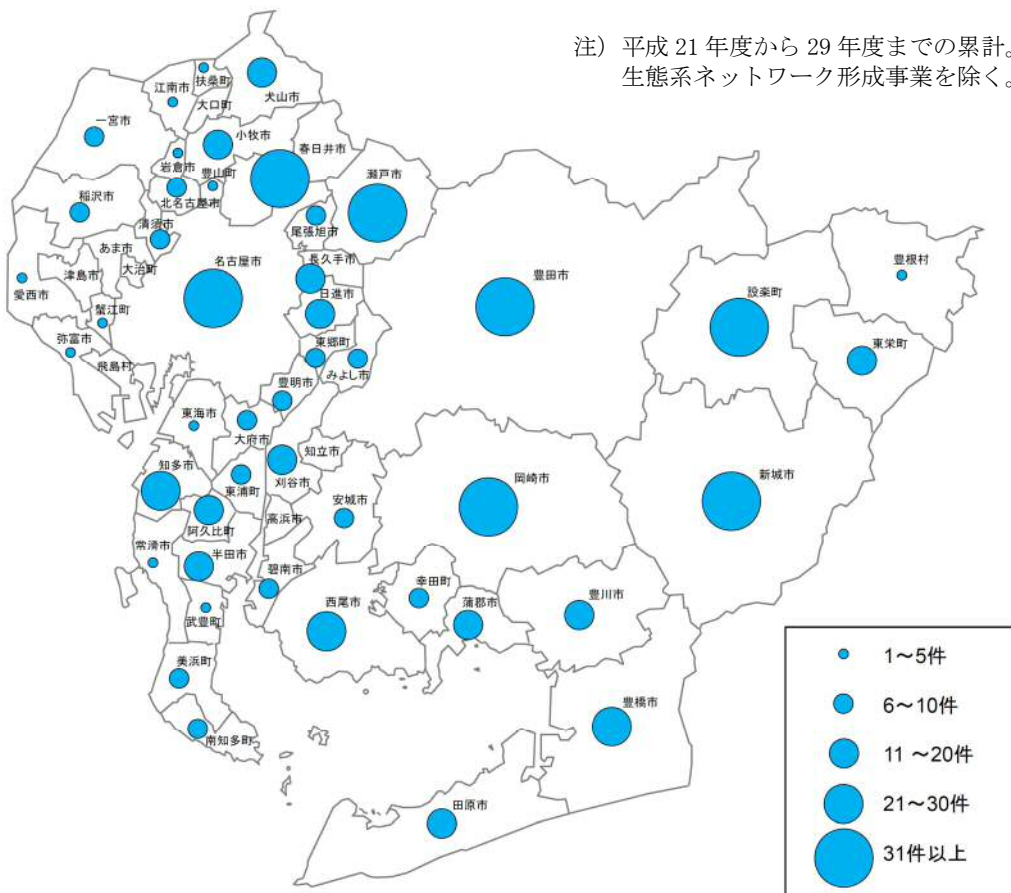


図 3-14 事業区分別の交付実績内訳

■事業実施状況

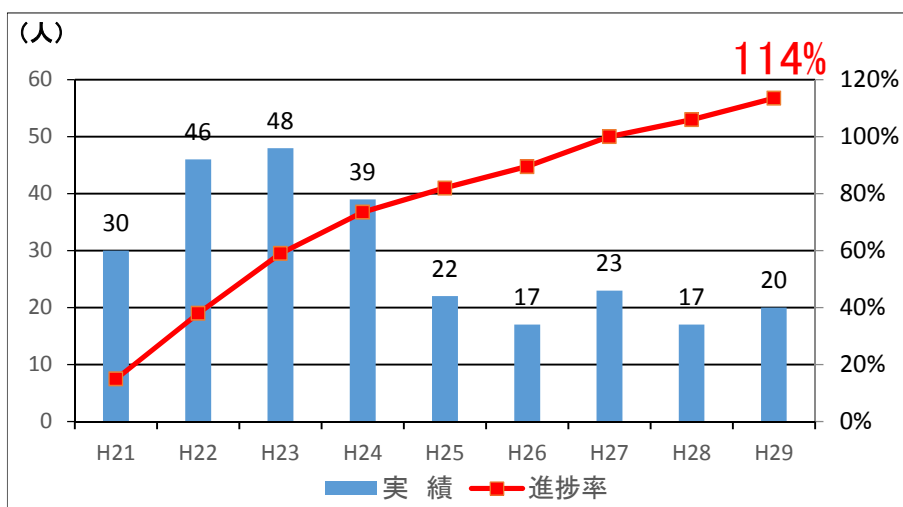


5 森林整備技術者養成事業

- 平成 29 年度までの 9 年間の研修受講者数は 227 人で、事業計画 200 人に対する進捗率は 114%となっています。
- 平成 29 年度には、里山林の利活用のための指導者養成を、あいち海上の森センターで実施し、30 名の方が受講しています。

■年度別事業実績及び事業計画の進捗状況（図 3-16）

- 森林整備技術者養成研修の受講者は、9 年間で 227 人（延べ 262 人）に及んでいます。



注) 進捗率の算出は実人数で計算。
(複数年度で研修を受講した者は、進捗率の算出にあたっては最初に受講した年度に人数を計上している。)

図 3-16 森林整備技術者養成研修の受講者数

■研修内容及び日数（平成 29 年度）

区分	内 訳	日 数
技能講習	玉掛技能講習	3
	クレーン講習	3
	高所作業車技能講習	2
	車両系建設機械運転技能講習	5
	はい作業主任者技能研修	2
実技研修	道沿い人工林の間伐、樹上作業、 はい積・トラッククレーン積込み 等	1 2
見学講義等研修	リスクアセスメント、チェーンソーの点検整備、原木市場の見学 等	3
計		3 0

6 木の香る学校づくり推進事業

- 平成29年度末現在の実績（見込み）は、児童生徒用学習机・椅子が77,757セットの導入に助成。全体計画70,000セットに対する進捗率は111%となっています。
- 下駄箱、ロッカー等は、1,770台の導入に助成し（見込み）、全体計画1,640セットに対する進捗率は108%となっています。

■年度別事業実績及び事業計画の進捗状況（図3-17）

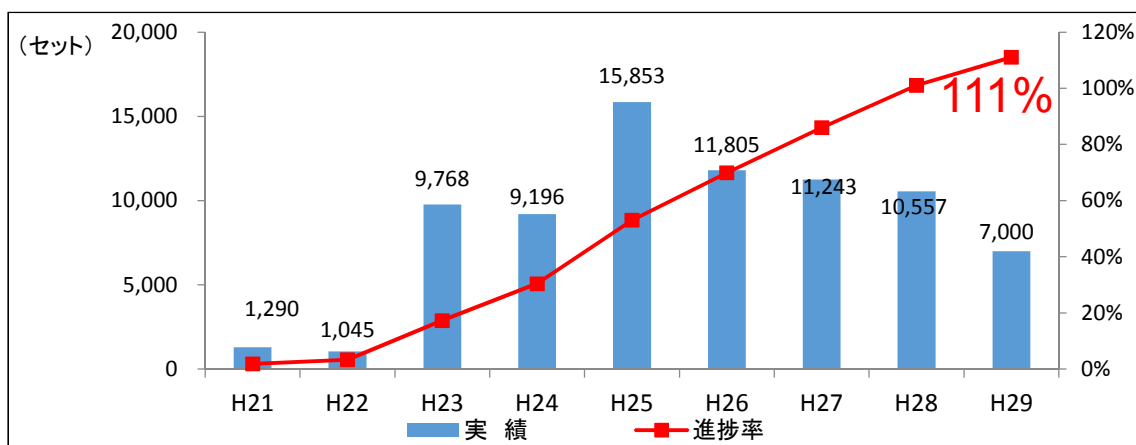


図3-17-1 机・椅子の実績及び事業計画の進捗率

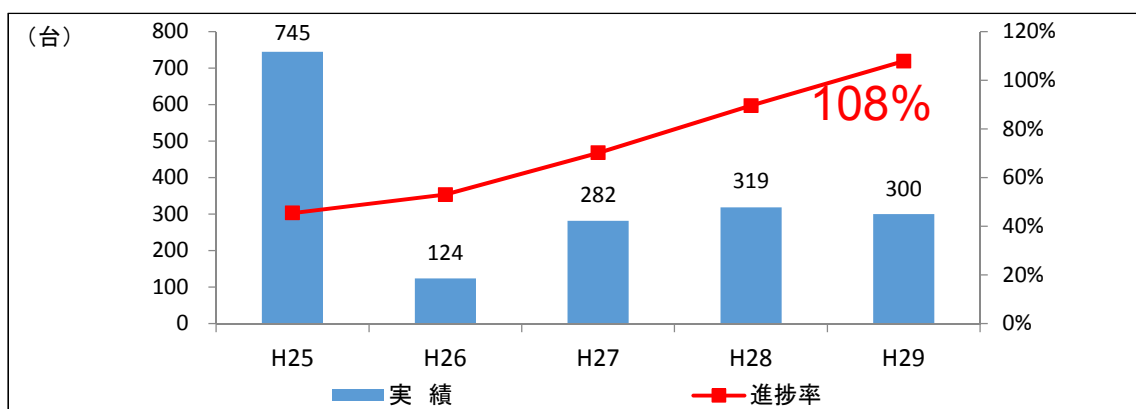


図3-17-2 下駄箱・ロッカー等の実績及び事業計画の進捗率

- 本事業を活用して机・椅子等を導入した学校に対して、事業効果を高めるため、県の林業普及指導員が、森の働きや木を使うことの大切さの講義を行いました。



出前講座の様子(豊田市)

7 愛知県産木材利活用事業【平成26年度から実施】

○ 平成29年度末現在の実績（見込み）は61件で、事業計画80件に対する進捗率は76%^{（注）}となっています。

（注）平成26年度から30年度までの5か年の計画量に対する4か年の実績（見込み）の進捗率

■年度別事業実績及び事業計画の進捗状況（図3-18）

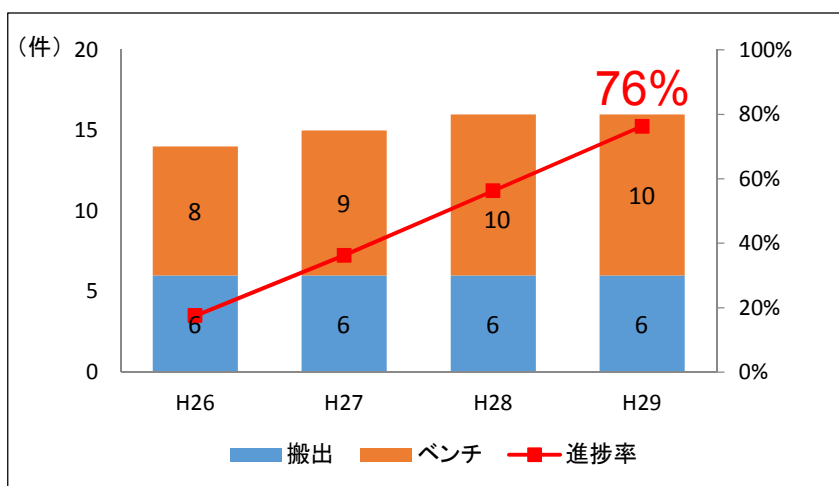


図3-18 事業内容別の取組件数及び事業計画に対する進捗率

■間伐材の搬出に関する支援

- 本事業により6市町において、間伐材搬出に関する地域の取組の支援が行われました。
- そのうち3市（岡崎市、西尾市、新城市）では、本事業の創設をきっかけとして、新たに取組が始まっています。

■県産木材を使用した木製ベンチ導入の支援

- 本事業により導入されたベンチの数は、年々増加傾向にあり、平成29年度末までに合計628基（見込み）が導入され、県民の方々に利用されています。

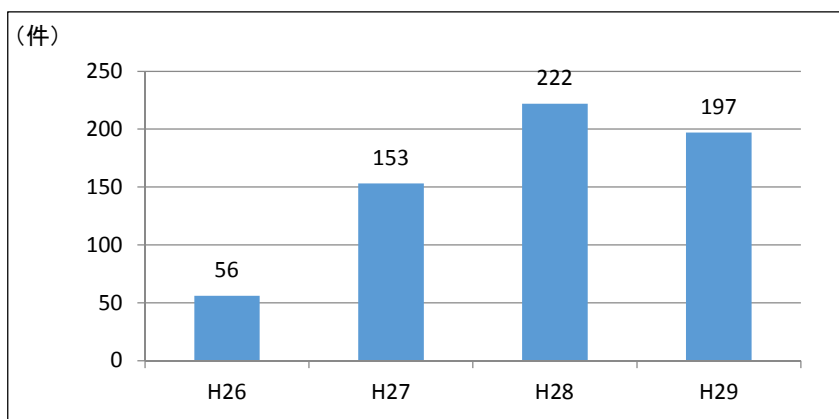


図3-19 導入されたベンチ数の推移

8 事業のPR

森と緑づくりの必要性や、あいち森と緑づくり事業への理解促進のため、さまざま機会を通じて、普及啓発活動を実施しました。

■森と緑づくり体感ツアー（毎年）

- 森や緑の現状を県民の皆様に直接、ご覧、ご体験いただき、森と緑づくりへの理解を一層深めていただくことを目的としたバスツアーを開催しました。



人工林間伐体験
(平成 22 年度
愛知野外教育センター付近)



どんぐりの苗木の植樹体験
(平成 25 年度
愛・地球博記念公園)



竹工作体験
(平成 27 年度
東浦自然環境学習の森)

【参加者の声】

- ・都市部で生活していると森のことなどは自分には関係ないと思っていましたが、森にはちゃんと役割があることを知りました。木は植えたら放っておいても大きくなると思っていましたが、間伐の必要さがわかりました。これからは森林について目を向けていきたいと思いました。
- ・こうしたツアーを通じて緑の大切さを学ぶことができよかったです。これからもこのような企画を作ってほしいと思いました。

■森と緑づくりシンポジウム（平成 25 年度）

- 「あいちの森と緑をととのえ隊」の「憲俊」さん（名古屋おもてなし武将隊 初代信長）や「OS☆U」のメンバーと一緒に、森と緑の大切さについて楽しく勉強したり、名古屋小演劇界で最大の動員数を誇る「劇団あおきりみかん」によるオリジナル演劇を鑑賞し、森や緑からの大切なメッセージを感じていただきました。

【開催日】 平成 25 年 12 月 22 日（日）

【場 所】 中区役所ホール

【参加者】 約 250 名



演劇の様子

【参加者の声】

- ・シンポジウムといっても堅くなく、とっても楽しく学べて良かったです。
- ・森の大切さについての演劇や授業などを通して、とてもわかりやすかったです。自分も興味はあったけれど、普段の生活では接していないので、あまり考えていませんでしたが、これを機に間伐が大切だということを伝えることができれば、今日来た意味があると思います。これからもみんな 1 人 1 人が考えていければと思います。

■全国都市緑化あいちフェア（平成 27 年度）

- 愛・地球博記念公園をメイン会場として開催された第 32 回全国都市緑化あいちフェアにおいて、「あいち森と緑づくりの庭」を出展展示するとともに、「あいち森と緑づくりワークショップ」を開催し、事業の普及啓発を行いました。



「あいち森と緑づくりの庭」の入場者の様子



「あいち森と緑づくりワークショップ」の様子
（4日間で延べ 497 名が参加）

■その他さまざまなイベント等でのPR



あいち・なごやESD交流フェスタ
（平成 26 年度 久屋大通り公園 他）



オーガニックファーマーズ朝市村
（平成 27 年度 栄オアシス 21）



人と自然の共生国際フォーラム
（平成 28 年度 あいち海上の森センター）



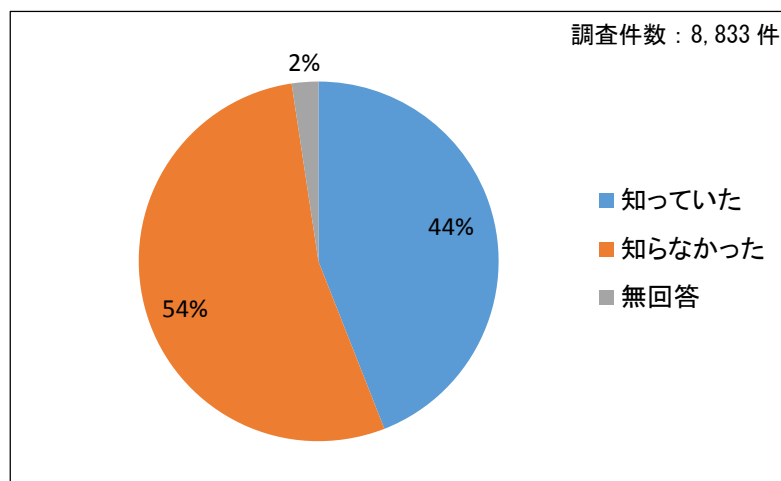
包括協定に基づく店舗でのPR
(スーパー)



包括協定に基づく店舗でのPR
(コンビニエンスストア)

■ イベント参加者へのアンケート調査結果

問：愛知県では平成21年度から「あいち森と緑づくり税」を導入し、「あいち森と緑づくり事業」を実施していますが、ご存知でしたか。



○ イベント参加者に行ったアンケート調査の結果では、4割以上の方が、あいち森と緑づくり事業について「知っていた」と回答しています。